3　試験機器の状態

［(1)　略］

(2)　キー操作、制御器又は外部試験装置を用いて空中線電力が最大となる状態に設定する。

(3)～(6)　［略］

4　測定操作手順

(1)　直交周波数分割多重方式又は直接拡散を使用するスペクトル拡散方式の場合

１MHz当たりの空中線電力を次のとおり測定する。

［ア～サ　略］

シ　空中線電力は、次のとおりとする。

(ｱ)　連続波の場合　　サの結果を等価雑音帯域幅により補正した値

(ｲ)　バースト波の場合　連続波の場合と同様に補正した値と送信時間率から、次式によりバースト内の平均電力を計算した値

$$\text{バースト内平均電力} = \frac{\text{サの結果を等価雑音帯域幅により補正した値}}{\text{送信時間率}}$$

$$\text{送信時間率} = \frac{\text{バースト送信時間}}{\text{バースト繰り返し周期}}$$

［ス～ソ　略］

(3)　１MHz当たりの空中線電力の最大値を与える周波数探索時のスペクトル分析器は、次のように設定する。

中心周波数	試験周波数
掃引周波数幅	占有周波数帯幅の２倍程度
分解能帯域幅	１MHz
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
Ｙ軸スケール	10dB／Div
掃引時間	測定精度が保証される最小時間（バースト波の場合は、１サンプル当たり１バーストの継続時間以上）
トリガ条件	フリーラン
掃引モード	連続掃引
検波モード	ポジティブピーク
表示モード	マックスホールド

(4)　探索された周波数での１MHz当たりの空中線電力を測定するときのスペクトル分析器は、次のように設定する。

中心周波数	最大電力を与える周波数（探索された周波数）
掃引周波数幅	０Hz
分解能帯域幅	１MHz
掃引モード	連続掃引

3　試験機器の状態

［(1)　同左］

［新設］

(2)～(5)　［同左］

4　測定操作手順

(1)　直交周波数分割多重方式又は直接拡散を使用するスペクトル拡散方式の場合

１MHz当たりの空中線電力を次のとおり測定する。

［ア～サ　同左］

シ　空中線電力は、次のとおりとする。

(ｱ)　連続波の場合　　サの結果を２(1)により補正した値

(ｲ)　バースト波の場合　連続波の場合と同様に補正した値と送信時間率から、次式によりバースト内の平均電力を計算した値

$$\text{バースト内平均電力} = \frac{\text{サの結果を２(1)により補正した値}}{\text{送信時間率}}$$

$$\text{送信時間率} = \frac{\text{バースト送信時間}}{\text{バースト繰り返し周期}}$$

［ス～ソ　同左］